2021 年 10 月 11 日配布・足立英彦

法理学ゼミのレポート・卒論の書き方

1　論文作成の手順

「入力（*input*）なければ出力（*output*）なし！」

1. 新書・百科事典の項目など、自分が関心をもつ分野に関する短めの文献を読む[*1]。
2. 上記の文献を、以下の点に印（付箋を使うのが良い）をつけながら読む。
   - メウロコ（目から鱗が落ちる）:「なるほど、そうだったのか！」
   - ハゲドウ（激しく同意する）:「そうそう、自分もそう思う！」
   - ナツイカ（納得がいかない）:「なんか変だな。どうしてそう言えるの？」
   - ハゲバツ（激しく反発）」:「絶対に認められない！」
3. 上記の点を「問」として定式化する、その際には問題をできるだけ絞り込む。絞り込めてない問の例
   - 大きすぎる問題:「法とは何か」「正義とは何か」「平等とは何か」「道徳とは何か」
   - 研究方法・論証方法がない問題:「法の起源」「道徳の起源」
   - 答えがない、または答えが無数にある問題:「最も理想的な社会」「最も理想的な大学」「最も理想的な法」「1,000 年後の未来社会」
4. 図書館・図書室に行く。（体を動かすことが大事！）
   - 関連分野の書棚を見て（NDC 分類記号！）本を手に取る。
   - 関連しそうな専門雑誌を手に取る。（日本語の法理学系雑誌は『法哲学年報』『法の理論』『法と哲学』の三誌）
5. インターネットで文献を探す。
   - 図書
     - 金沢大学 OPAC（`http://www1.lib.kanazawa-u.ac.jp/`）
     - CiNii Books（`https://ci.nii.ac.jp/books/`）
     - 国立国会図書館 (`https://ndlonline.ndl.go.jp/#!/`)
   - 論文
     - CiNii Articles（`\https://ci.nii.ac.jp/`）
     - Google Scholar（`https://scholar.google.co.jp/schhp?hl=ja`）
     - 国立国会図書館 (`https://ndlonline.ndl.go.jp/#!/`)
     - TKC ローライブラリー→法律文献総合 INDEX →『文献』検索（附属図書館 Web より）

[*1] 以下の「1 論文作成の手順」と「2 Paragraph Writing の重要性」は、戸田山和久『新版　論文の教室　レポートから卒論まで』（NHK ブックス、電子書籍版、2015 年）に依拠しています。

  - WestLaw Japan「文献情報」（法学類図書室 Web より）

6. 集めた文献を全文を読む必要はない。とりあえず「アブストラクト（要約)」を読む。
7. 教員に聞く。
8. 自分が書く論文の要約（abstract）を作る。
   (a) 問い：どのような問に取り組むのか。
   (b) 答え：問に対してどのような答えを出すのか。
   (c) 論拠：答えをどのように論証（理由付け）するか。
9. 論文の構造（outline）を作る。それを成長させる。

2 Paragraph Writing（パラグラフ・ライティング）の重要性

- paragraph: 「一つのこと」（単文一個で言えること）を言う。
- 上記の単文：topic sentence（トピック・センテンス)。topic sentence は paragraph の先頭に置くのが基本。
- 残りの文は sub sentence（サブ・センテンス)。
  - topic sentence のより詳しい説明
  - topic sentence の根拠
  - topic sentence の言い換え
  - 前後の paragraph との接続を表す文。

3 文献の出典の明示方法

3.1 一般的な注意点

- 引用はカギ括弧でくくり，自己の文章と区別すること。
- 出典を明示すること (著作権法 48 条)。最も大事なのは、
  - 読者がその文献を確認できるようにすること。
  - 自分の論文の中で表示方法を統一すること。
- 表記方法は以下に従う。
  -「法律編集者懇話会」作成の「法律文献等の表示方法」
    `http://houkyouikushien.or.jp/katsudo/pdf/houritubunken2014a.pdf`
  - OSCOLA
    `https://www.law.ox.ac.uk/sites/files/oxlaw/oscola_4th_edn_hart_2012.pdf`
- 卒論では、論文の末尾に引用した「文献一覧」（著者の五十音順、またはアルファベット順）を掲載する。レポートでは省略可。
- 文献一覧を末尾に掲載する場合は、脚注での出典表示は簡略化してよい。

3.2　単行本

3.2.1　単独著書

- 奥付（おくづけ）の情報に基づくこと。
- 書名は二重カギ括弧『　』でくくる。
- 初版本の場合，版表示は省略する。
- 発行年は一刷の年を表示する。
- 例：竹下賢『法秩序の効力根拠』（成文堂、2016 年）

3.2.2　共著書

- 共著者が 3 名以上の場合は 1 名のみを表示し，その他の共著者名は「ほか」と表示す
- 例：宇佐美誠ほか『正義論ーベーシックスからフロンティアまで』（法律文化社、2019 年）
- 例：井上達夫「正義論」長尾龍一・田中成明編『現代法哲学１　法理論』（東京大学出版会、1983 年）63〜101 頁

3.3　雑誌論文

1. 著者名「論文タイトル」雑誌名巻号（発行年）頁
2. 例：酒匂一郎「アレクシーの基本権論と比例性分析論」法政研究 88 巻 1 号（2021 年）264〜222 頁
3. 雑誌名は略称でも良い（「法律文献等の表示方法」を参照）。例：法政研究⇒法政

3.4　インターネット上の資料

- 単に URL を掲載するだけではなく、著者と title をできるだけ特定する。閲覧年月日の記載も必須。
- 例：文部科学省「文部科学白書」
  `https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpab202001/1420041_00009.htm`
  （2021 年 10 月 11 日）

3.5　脚注

- 脚注は必ず句点（欧文の場合は period（ピリオド）で終わる。
- 前掲文献をもう一度表示する場合：竹下・前掲注（10）100 頁。